

## かわせみの会10年の観察記録

赤保正文・西村節子・能勢公紀・藤原玉規・西部泰弘・石倉則雄・清田けい子  
橋本泰和・林幸子・乾慎一・荒木ミサ子・田中良人・松尾智子・土肥範昭  
河島末代・木原礼子・宮野由子・乾優子・吉田園枝・村上亮  
(NPO 法人 人と自然の会 かわせみの会)

### はじめに

「NPO 法人 人と自然の会」は、博物館の来館者にイベントを提供しているボランティア団体です。動植物に関心の高いメンバーが多く、「かわせみの会」というサークルを作って、月1回野鳥観察を行っています。観察会は昨年未でちょうど10年目になりました。共生のひろばでは、これまでの観察会の記録とともに、春夏秋冬の三田の景色、よく観察する鳥の絵を、カラフルな貼り絵にして展示発表しました。野鳥観察の楽しさを、お伝えできれば幸いです。



写真1 三田の四季と鳥たち

### 野鳥の記録方法

- ①月1回 朝9時集合～昼まで 毎回10人ほどが参加。メンバーの野鳥の知識は様々です。
- ②歩きながら、野鳥を探します。双眼鏡や望遠鏡で姿を見、または鳴き声を聞き、確認できた鳥の名前を記録していきます。野生化した家禽、いわゆるドバトやアヒルは記録しません。
- ③ランチしながら、記録を確認します。
- ④後日、記録表を、サークルの全員に送ります。



### 観察コースの概要

おおむね次の2コースを月替わりで歩いています。

①JR 新三田駅から大池川沿いを有馬富士公園の福島大池へ行くコース

武庫川と福島大池の水鳥、田畑の小鳥、森の中の小鳥を観察できます。公園内はエサを撒く人がおり、本来は木に隠れて見つけにくい鳥を観察できることがあります。

②JR 三田駅から武庫川沿いを下流へ向かい、田園地帯を通るコース

武庫川の水鳥、田畑の小鳥、開けた田園地帯でタカ類を観察できます。トイレが無く、冬は吹きさらし、夏は日射がキツイですが、珍しい鳥に出会うことがあります。

10年間の記録累計

2009年1月～2018年12月の10年間に観察会を103回実施しました。表1に、鳥の種名と、その鳥を確認できた観察会の回数を多い順に並べました。1回の観察会で確認する種は20～40種、累計は39科107種になります。うち61種を10回以上記録しています。

種名	回数	種名	回数	種名	回数	種名	回数
ホオジロ	92	ジョウビタキ	35	アオゲラ	10	ヨシガモ	1
ヒヨドリ	89	イソヒヨドリ	33	ニューナイスズメ	10	トモエガモ	1
ハシブトガラス	85	ホシハジロ	29	コチドリ	8	スズガモ	1
カワウ	84	ハシビロガモ	28	センダイムシクイ	8	カンムリカイツブリ	1
ハシボソガラス	84	オナガガモ	27	オオルリ	8	アマツバメ	1
ハクセキレイ	82	イソシギ	27	マヒワ	7	アオアシシギ	1
トビ	78	アオジ	26	イカル	7	トウネン	1
セグロセキレイ	76	カワセミ	24	オカヨシガモ	6	ツミ	1
カルガモ	70	イワツバメ	23	クイナ	6	アカゲラ	1
スズメ	69	ミサゴ	21	チョウゲンボウ	6	サンショウクイ	1
カワラヒワ	68	キジ	20	アトリ	6	キクイタダキ	1
カイツブリ	65	コジュケイ	19	バン	5	コガラ	1
モズ	56	コシアカツバメ	19	ハイタカ	5	ヒガラ	1
ウグイス	54	カシラダカ	19	オオタカ	5	ヤブサメ	1
コガモ	53	オオバン	17	ノビタキ	5	セッカ	1
アオサギ	53	イカルチドリ	16	ミヤマホオジロ	5	ミソサザイ	1
ヒドリガモ	49	カケス	16	ヒクイナ	4	トラツグミ	1
ムクドリ	49	シロハラ	16	タシギ	4	アカハラ	1
キジバト	48	アマサギ	14	チュウサギ	3	ピンズイ	1
コゲラ	48	ソウシチョウ	14	クサシギ	3	ウソ	1
ヒバリ	47	オオヨシキリ	14	ハチクマ	3	シメ	1
シジュウカラ	46	ノスリ	13	サンコウチョウ	3		
ダイサギ	44	アメリカヒドリ	11	コサメビタキ	3		
エナガ	44	コサギ	11	ベニマシコ	3		
ツバメ	43	ホトトギス	11	ヤマドリ	2		
キセキレイ	41	ケリ	11	サメビタキ	2		
メジロ	40	ルリビタキ	11	タヒバリ	2		
ツグミ	40	キビタキ	11				
ヤマガラ	38						
キンクロハジロ	37						
マガモ	36						

表1 鳥の種名とその鳥を確認できた観察会の回数

考察

表の上位は、普段よく目にする鳥、一年中いる鳥(留鳥)、体や声が大きい

鳥、目立つ所でさえずる鳥です。コガモのように、長い期間とどまる渡り鳥も多くなっています。

スズメが意外に少ないのは、人家の敷地内に多く、観察されにくいためだと思います。

初冬までいるイワツバメが、秋にいなくなるツバメより少なくなっています。これは、イワツバメが、巣作りする②コースの某橋近辺に多く、①コースに少ないためです。同様に、一地域だけで記録される鳥は、橋の改修のような小さな環境の変化で、いなくなる恐れがあります。

三田市は、山、広い田畑、花木の多い宅地、大小の川・ため池…と様々な環境が隣り合っています。107種もの鳥を観察できるほど、虫や木の実などの餌が豊富にあり、隠れ家や巣作りの場所が多いのだと思います。

おわりに

おしゃべりに花を咲かせ、草花を愛でながら、楽しく観察会を続けています。目も耳も衰えた、オジサン、オバサンたちが、月一回歩いて出会えるのは、ほんの一握りの鳥たちです。目立ちたがり屋のホオジロさえ観察できない日もあります。しかし、10年間の観察数を累計すると、しっかりホオジロが最多にランクしました。膨大な記録を見ると、年毎に増減の大きい鳥もいます。野鳥の動向は、観察を長年続けなければ、わからないということでしょう。

観察記録には入れませんが「うちの庭に来た」「あの池にいる」「桜が咲いた」「実のなりが悪い」などの雑談は、鳥の暮らしを想像するヒントになります。気まぐれな鳥の心を知るには、単に数を追うより、季節の移ろいを感じながら観察することも大事だと思います。

野鳥や自然について指導して下さっている人と自然の博物館研究員の布野隆之先生をはじめ、博物館の先生方に感謝いたします。